



CONTENTS

1	APJE 第五回総会
	APJE 新役員メンバー 野崎新会長よりご挨拶
2	四年間の感謝 鈴木前会長よりひとこと
2-3	APJE2014年度 今後の活動予定 APJE 定期勉強会 『まるごと』文法解説書 第17回 APJE 研修会 第1回スペイン日本語劇コンクール
3-4	APJE で学ぼう！ 参加者ルポ① 林田慶子 参加者ルポ② 木村愛美 参加者アンケートの声
5-7	スペイン日本語教育概要 2014年 隈井正三
7	お別れ・・・JFMD 日本語 専門家 西岡あやさん
	巻末資料 2013年度会計報告 第五回総会研修会参加者 アンケート結果

スペイン日本語教師会 第五回総会開催一

スペイン日本語教師会(以下、APJE)設立より5年目に入る本年2014年2月8日、国際交流基金マドリッド文化センター(以下、JFMD)でAPJE 第五回総会が開催された。52名の参加者を前に、開会式では在スペイン日本大使館森下敬一郎公使、そしてJFMD 上野宏之所長より心温まるご挨拶を賜り、APJE 会長鈴木裕子からは、設立以来目覚ましいAPJEの成長ぶり、そのAPJEの活動を常に支えてくださっている大使館とJFMDへ心より感謝の言葉が述べられた。

恒例の前年度活動報告では、鈴木会長より昨年度中に開催された各種研修会、とりわけ23カ国222名の参加者を数え、全日程三日間に渡ったヨーロッパ日本語教育シンポジウムマドリッド大会についての報告、年間会計報告(益子夏実)、またAPJEプロジェクトとして、『まるごと』文法解説書執筆

プロジェクト(西岡あや)、東日本再生ビジョン展キャッチコピー翻訳プロジェクト(高橋水無子)、APJE 定期勉強会(桜井悦子・杉山千尋)についてそれぞれ報告がなされた(会計報告については巻末資料参照)。

本年度はAPJE 役員改選の年にあたり、会員出席者全員が見守る中、旧役員から新役員への交代が承認され、APJEはさらなる成長を目指して新たなスタートを切った(詳細は下記記事参照)。

当日夜は、佐藤悟在スペイン日本国特命全権大使のご厚意により大使公邸での懇親夕食会にお招きいただき、数々のおいしい料理に感激しつつお互いの親睦を深めることとなった。毎年このような場を設けてくださる大使のお心遣いに、APJEとして少しでもお礼を、という鈴木会長の提案で、総会参加者のメッセージを寄せ書きした色紙とスペインワインが大使に贈られた。

APJE 新役員メンバーであらたな出発！

第五回総会で承認された新役員メンバーは以下のとおりである(敬称略)。

会長 野崎美香 副会長 大槻岳子
会計 吉本由江 会計補佐 渡辺未知代
書記 加藤さやか 書記 WEB 高橋水無子
一般役員(50音順)今枝亜紀 江崎美保子
大和田道子、杉山千尋 鈴木裕子 林田慶子
ラウラ・リバス イグナシオ・ロペス

野崎美香新会長より ご挨拶

みなさん、こんにちは。
野崎美香です。所属先がEOI コルーニャ校ということで、APJEの皆さんには「コルーニャの野崎」というイメージがあるのではないのでしょうか。ですが16年間サンティアゴに在

住してまして、自分の中では「サンティアゴの野崎」という意識があります。

私がスペインで日本語教育に携わるようになってから、早いもので15年が経ちました。APJEが発足されてからは、APJE主催の様々な研修会に参加したり、口頭発表などの機会を与えていただいたりし、多くのことを学んできました。ですからAPJEからたくさんのお恩恵を受けている者の一人だと感謝しています。

今後はAPJEを運営していく側とし、スペインの日本語教師のみなさんにとってAPJEが「大きな拠り所」となるよう努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。



左から渡辺、野崎、加藤、高橋、吉本

四年間の感謝 鈴木裕子前会長より ひとこと



2010年2月 APJE 設立総会での記念撮影

15年前にマドリッド・コンプルテンセ大学現代言語センターで日本語を始めたときには、日本語の教師は私一人で、授業も試行錯誤、疑問や問題があっても相談する人もなく、授業実践を共有し、悩みや問題点を分かち合える仲間がいたらどんなにいいだろうと痛切に感じました。それが教師会を立ち上げたきっかけと言えるかもしれません。

4年間無我夢中で運営に携わった教師会は、新会長野崎さんにバトンタッチしてからもどんどん成長を続けています。普段遠く離れていても、総会や研修会で会えば、仲間同士気軽に話し、情報交換できる実り多き、そして居心地のいい教師会であることが本

当に嬉しいです。これも皆さん一人一人が積極的に教師会と関わり、応援してくださっている賜物だと思います。4年間本当にありがとうございました。これからは雑用係として教師会のお手伝いできればと思っています。



鈴木前会長、そして旧役員みなさま、お疲れ様でした！

APJE 2014 年度 今後の活動予定

➡ APJE 定期勉強会開催中

毎週火曜日 11:00-12:00 JFMDにて
現在、国際交流基金 日本語教授法シリーズ3『文字・語彙を教える』を読んでいます。
途中参加・Skypeによる地方の先生方の参加も大歓迎。とてもなごやかな雰囲気の中で率直に意見交換をしながら進めています。毎回必ず学ぶことがあって、「来てよかった！」と思える勉強会です。
(桜井リーダーより)
参加希望は apje.info@gmail.comまで！

➡ 『まるごと』文法解説プロジェクト

A2-B1(初中級) 試行版が完成し、2015年3月末製本印刷予定。次のB1-1(中級)の執筆が2014年5月にスタート！

➡ 第17回 APJE 研修会

6月21日(土)15:00-19:00
Rafaelhoteles Orense の会議室にて
参加費 会員無料、非会員5ユーロ
参加申込は apje.sanka@gmail.comへ
研修内容(二本立て)
講師 迫田久美子先生
「わかる」から「できる」へ繋ぐ日本語指導とは～第二言語習得研究からシャドーイングの実践研究へ～
講師 嶋田和子先生
楽しく学べる漢字学習とは～『漢字たまご』を使って～
締め切り迫る！(6月15日)



和気あいあいの定期勉強会風景。Skype参加もOK！

➡ APJE 語学センターネットワーク会議

6月28日(土)10:00-14:00
語劇コンクール出場校を中心に今後のネットワークのあり方などを協議します。

➡ 第一回スペイン日本語劇 コンクール

6月27日(金)17:00-20:30
マドリードコンプルテンセ大学文学部 E 館
(multiusos1) Salón de actos にて
JFMD・APJE・CSIM 共催

約一年の準備期間を経て、7つの大学語学センターの演劇チームがスペイン各地よりマドリードに集結します。語劇コンクールのタイトルは「〇〇〇を待ちながら」。サミュエル・ベケットの「ゴドーを待ちながら」をもじったタイトルです。持ち時間は10分。誰かあるいは何かを待ちながら、それぞれの人間模様、愛、葛藤、憎しみ、和解などを表現していきます。シナリオから、演技、演出、衣

装、舞台装置、すべて学生たちが考え、彼らの手によって創られたものです。スペイン人が持つ独創性が日本語劇の中でどう花開くか、日ごろの日本語学習の成果を発揮して、日西交流の大スペクタクルが繰り広げられることとでしょう。ぜひ、皆さま応援にきてください!! (鈴木実行委員長より)

➡ 講習会

9月8日(月) 15:00-19:00
JFMD 地下1階 PC 研修室にて
講師 中川千恵子先生
『日本語音声教育のためのオンライン日本語アクセント辞書』の使い方
定員 24名



第一回スペイン日本語劇コンクール
プログラム等詳細は apje.es で

APJEで学ぼう！ 参加者ルポ① 林田慶子さん(マドリード)

2月8日研修会 「コミュニケーションのための日本語教育」

今年の日本語教師会研修会は、国立国語研究所の野田尚史先生をお迎えして、コミュニケーションのための日本語教育というテーマで幕を開けました。

まず第一部の基調講演では、コミュニケーション能力を高めるために我々教師は何を教えていけばよいのかという課題について野田先生にお話を伺いました。

野田先生の講演は、まず私たち日本語教師が盲目的に信じていた「既存のテキストを手引きに沿って使用していく」という常識を崩していくことから始まりました。私たち日本語教師は、テキストにある程度不満足な部分があっても、自分たちの工夫で足りない部分を補足したり、変化をつけたりしながら、とりあえずテキストに沿って授業計画を立て、テキストに提出されている文法、文型は、ほぼ全部授業の中で教えていくことを基本としてきたと思います。しかし野田先生のお言葉によると、「みんなの日本語」を初めとする、私たちになじみ深いテキストは、「日本語学的な文法項目から出発する教材」で

あり、現実のコミュニケーションの際に必要なとされる日本語教育とは大きなギャップがあることを、数多くの例を挙げて説明してくださいました。そして次に、実際のコミュニケーションに使える日本語教育を「聞く」「話す」「読む」「書く」という4つの視点で、数多くの場面、状況の例を挙げ、私たちとの問答方式で説明してくださいました。どの例に対しても、初めは驚きの表情を隠せなかった私たちに、野田先生は、「教師は教科書を使っていると、それが現実の日本語とってしまう」「日本語教師は普通じゃない」との明言を残してくださいました。まさに、そのお言葉の通り、教科書を信じ、授業のために教科書を分析、研究し、教科書体、教師態の頭になってしまった私たちは、一般人が使う普通の日本語が分からなくなってしまっている部分もあると実感させられ、もう一度コミュニケーションという視点で、自分たちの日本語教育を考え直せねば・・・と、しみじみ感じさせられる講演でした。



APJEで学ぼう！ 参加者ルポ② 木村愛美さん(サラマンカ)

2月8日 欧州日本語教師研修還元ワークショップ

「行動中心主義における評価」

「行動中心主義に於ける口頭やりとりの評

価: JF Can-do を活かした口頭やりとりテストを作成してみましょう！」

「何のために日本語を勉強するのか」「日

本語を使って何ができるのか」根本的な日本語教育のあり方について改めて考えさせられた研修会でした。

まず最初のパート1では、行動中心主義とは何か、そしてそれに基づきどのような評価ができるのか、を教えてくださいました。研修前、プログラムでこのタイトルを見た時、名前からして難しそうな内容だな、というのが本心でした。しかし、イグナシオ・ロペス先生の説明を聞いていくうちに、「なるほど。よく考えれば自分もそうだった」と、スペイン語を学んでいたサラマンカ留学時代のことに完全に当てはまるような気がしてきました。というのも行動中心主義というのは、学習者が必要としている場面を想定し、与えられた条件や環境のもとで、学習者が言葉を使って遂行できるようにする、コミュニケーションに注目したと考え方。当時、私は語学学校で習いたてのあやふやなスペイン語を駆使し、日常生活のあらゆる場面で、何とか伝えようと必死になっていました。ただその時、いつも思っていたのが、「学校で習うスペイン語は、文型ばかりで、実際に買い物する時や注文する時には役に立たない」「スペイン人が使うような表現を勉強したいのに」ということでした。数年経ち、日本語を教えるようになった今、教科書に出てくる日本語を教えるのに一生懸命になって、この「言葉を使って、何かをしなければならない状況を学習者に作り出す」、という一番重要なことを忘れていたような気がします。行動中心主義の考え方は、学習者が言語を使って伝えようとしても、それが相手に上手く伝わらなかった場合、目的が達成されなかったことになり、コミュニケーション・アプローチと、この課題遂行能力の両方が必要とされるということでした。コミュニケーション言語能力を形成する、言語構造的な能力、社会言語能力、言語運用能力の3つの能力についても勉強し

ました。そして、これらをどうやって評価するかという2つ目のテーマを見ていきました。

評価方法は、客観テストと主観テストがあり、それぞれの長所と短所を勉強しました。実際、私は個人で教えているので、テストをすることはあまりしません。学習者とのやり取り、または作文等の添削をしていくうちに、一緒に足りない点を補っていくという方法をとっているのですが、説明を聞いて、自分の評価のあり方について考える機会をいただいたような気がします。

休憩をはさみ、パート2では、行動中心主義における口頭やりとりの評価を学んだ後、実際に口頭やりとりテストを作成してみました。評価の基準は、①何のために②誰と③どこで④何を⑤どのように、話すかがポイントになり、何よりも正しく話すよりも、伝わることに重点を置いています。確かに、「レストランに食べた」と学習者が間違えても、意味は通じるので、正確さにこだわるあまり、コミュニケーション本来の意図を見失ってしまう危険性を改めて学びました。ワークショップでは、グループでレベルを1つ選び、JF Cando のリストから1つ選び、それに基づいたロールカード及び、評価項目を考えていきました。私達のグループはA1レベルの、「食卓で短い簡単な言葉で頼んだり、頼まれたことに対応できる」というタスクを選びました。みんなで知恵を出し合い、「こんなことができるんじゃない?」「いや、これは簡単すぎるから、こっちにしてみたら?」などと、意見を出し合い、素晴らしいロールカードが作成できました。

これまでは、市販の教科書に頼ってばかりで、自分で考えてタスクを作るということを怠っていましたが、この研修で学んだことを生かして、今後挑戦していこうと思いました。

APJE で学ぼう！ 参加者アンケートよりみなさんの声 4月26日 研修会「過去と現在と未来の『教師としての私』 を繋げるー教師ポートフォリオ作成ワークショップー」

春の研修会は講師にアイルランド教育技能省から近藤裕美子先生をお迎えして開催された。教師用ポートフォリオというテーマのもと、約20名の参加者が熱心にワークショップに取り組んだ。以下、終了後の参加者アンケートより、参加者の声を紹介する。
・ポートフォリオを実際に体験して、ポートフォリオってなんなのかよくわかった。
・理論より実践が中心だったのがよかった。

- ・ポートフォリオの意義を体験できた。
- ・このテーマは本当にいい!
- ・なかなか過去や現在を振り返ることがないので、それが未来に通じるということも驚き。
- ・いろいろな先生と意見交換できてよかった。
- ・もっと前に受けたかった!
- ・…などなど、充実感たっぷりの感想が多数寄せられた。

スペイン日本語教育概要 2014 年最新情報

JFMD 日本語上級専門家 隈井正三
shozo.kumai@fundacionjapon.es

2014 年 2 月の APJE 総会で報告した内容を基にスペインの日本語教育の概況をお伝えします。総会での報告は 2012 年の日本語教育機関調査に基づいています。

1. 学習者数

スペイン国内の日本語学習者数は、2009 年度調査に比べ 893 人増(約 22% 増)となっており(図1)、大学等の高等教育機関での伸びが大きくなっています。

複数の大学で 4 年制の学士課程 (GRADO)が始まったことが増加の一因かもしれせん。

州別に学習者数の増減を見たものが表1です。学習者は全国で一律に増えているわけではなく、8 つの州で増加(表中赤)、6 つの州で減少しています(表中青)。学習者数の多い州トップ5は変わりませんが、バレンシアが 3 位に上がり、前回 3 位のアンダルシアと入れ替わりしました。増加した地域としてはバレンシア、アラゴン、マドリードが目立ちます。そして、アストゥリアスとカスティリヤ・ラ・マンチャでは前はゼロでしたが、新たに日本語を教える機関ができたようで、数字が出ています。逆に、カナリアでは今回は学習者がゼロという結果となっています。リオハ、エストゥレマドゥーラ、カンタブリアにはまだ日本語を教えているコースがないようで、機関調査では学習者が数字に表れていません。

図1: スペイン国内の教育段階別日本語学習者数

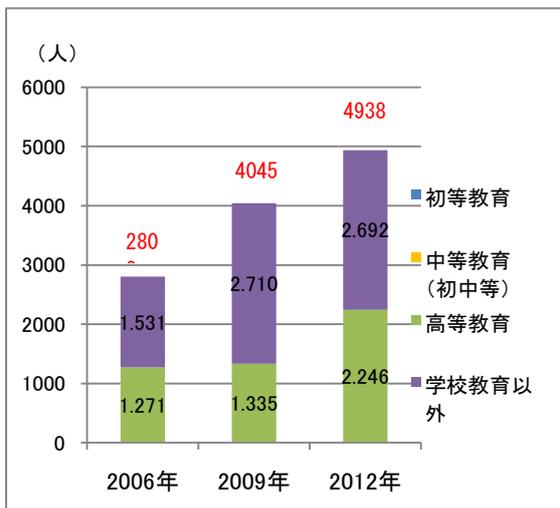


表1: スペイン国内の州別日本語学習者数

州	学習者数	
	2009 年	2012 年
カタルーニャ	1,472	1,380
マドリード	942	1,122
バレンシア	276	898
アンダルシア	485	459
ガリシア	316	343
カスティリヤ・イ・レオン	216	296
アラゴン	50	227
ナバラ	60	71
バレアレス	57	52
アストゥリアス	0	29
ムルシア	45	28
カスティリヤ・ラ・マンチャ	0	18
バスク	25	15
カナリア	101	0
リオハ	0	0
エストゥレマドゥーラ	0	0
カンタブリア	0	0
合計	4,045	4,938

* 2012 年調査の学習者数順

2. 機関数・教師数

機関数と教師数は、学習者数に比べると幅は小さいですが、ともに増加しています(図2、図3)。2009 年の調査と比べると、増加の幅は小さいのですが、2006 年と比べると、機関は約 1.4 倍、教師は約 1.5 倍となっています。

図2: 機関数

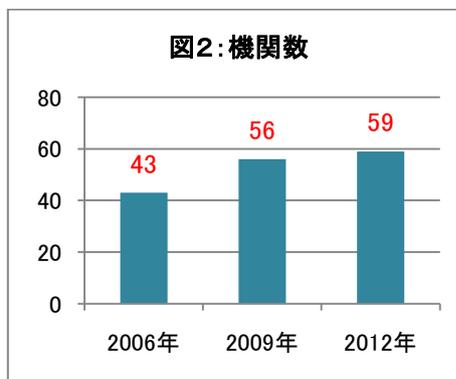
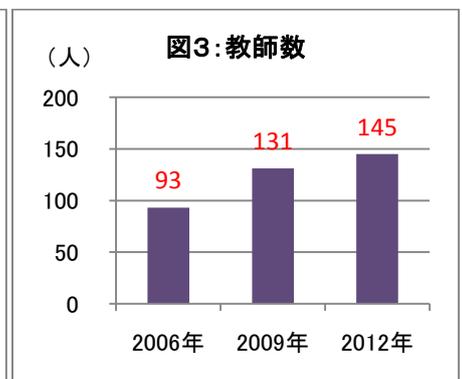


図3: 教師数

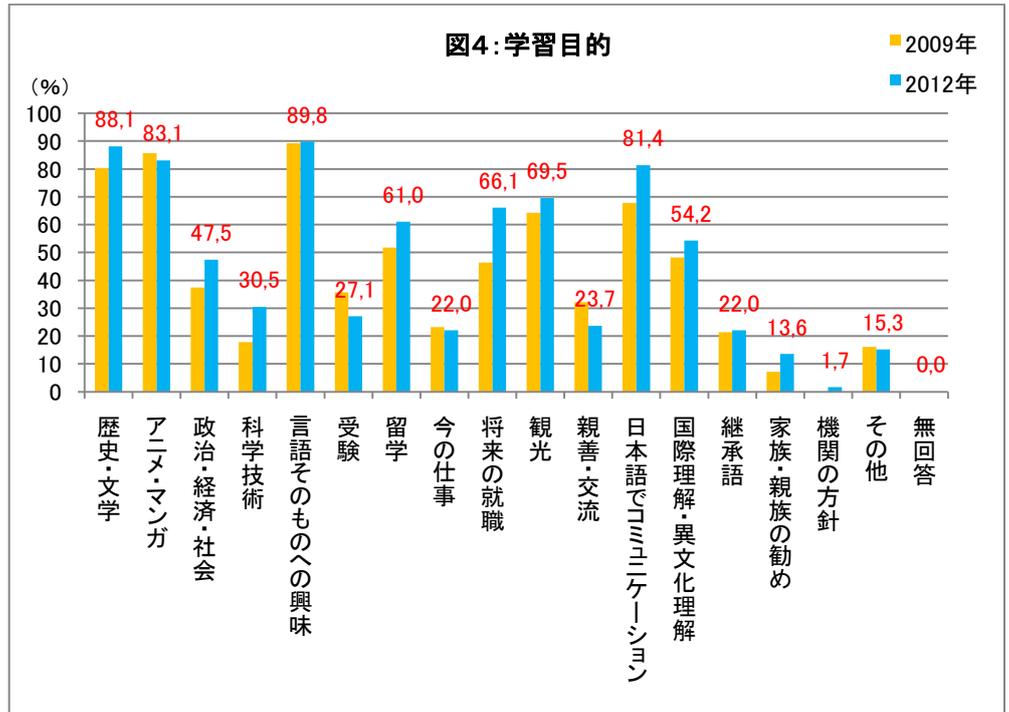


3. 学習目的

学習目的にも変化が見られます(図4)。もっとも多いのは「日本語そのものへの興味」で変わりありませんが、「アニメ・マンガ」はもちろん非常に多くの学習者が目的としていますが、今回の調査では「歴史・文学」に抜かれて3位になっています。そして「日本語でのコミュニケーション」が大きく伸びて4位

になり、「アニメ・マンガ」に迫っています。その他、「政治・経済・社会」や「国際理解・異文化理解」、「科学技術」といった真面目というか力強い項目が伸びています。それから、「留学」や「将来の就職」という実利的な目的も増えている点も目立ちます。

この変化は、大学等の高等教育機関の学習者が増えたことと関係があるかもしれません。



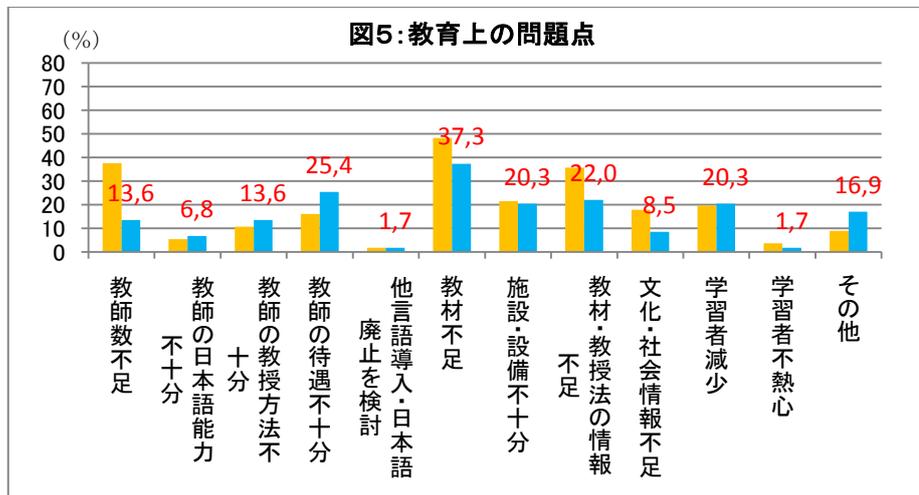
4. 日本語教育上の問題

2009年の調査と比べると、「教師不足」、「教材不足」と「教材・教授法の情報不足」、「文化・社会情報不足」については、かなり改善されてきています(図5)。

2010年にAPJEが設立され、同年に国際交流基金マドリッド日本文化センターも開所し、教師支援のための情報提供やネットワークづくりが進んだ結果でしょう。

一方、「教師の待遇不十分」の回答が目立って増えています。この問題は日本国内でも他の国や地域でもよく耳にします。しかし、スペインの数字は世界平均(11.7%)を大きく上回っています。

長引く経済危機の影響でしょうか。2014年に入り景気が底を打ったというニュースもあります。国内の経済状況の改善が教育現場をめぐる環境と日本語教師の処遇にも反映されるといいのですが。



5. 次回調査

国際交流基金では、3年ごとに日本語教育機関調査を実施しています。今回は来年、2015年に実施されます。上記1.で州ごとの学習者数の増減を見た際に学習者がゼロの州がありました。ところが、紙幅の関係でここでは紹介できませんでしたが、これらの州にも日本語能力試験の受験者がいます。日本語を教えているところがあるのかもしれない。機関調査ではスペイン国内のすべての学校・機関に回答してもらっているわけではありませんので、実際には日本語コースがあるのに、カウントされていないこと

もあります。もし、お近くの学校・機関にお勤めの先生で、日本語コースはあるのに調査には回答したことがないという方がいらっしゃいましたら、ぜひ次回にご協力くださるようお願いください。当センター機関調査担当の今村まで学校名とお名前を送っていただけますようお願いいただければと思います。情報共有が APJE のネットワーク拡充にもつながります。アドレスは、[risa.imamura\[at\]fundacionjapon.es](mailto:risa.imamura@fundacionjapon.es) ([at]を@にしてお送りください)です。

ご協力のほど、どうぞよろしくお願いたします。

お別れ・・・JFMD 日本語専門家 西岡あやさん

JFMD の日本語専門家として、この三年間 APJE の活動を様々なかたちで支えてくださった 西岡あやさんがこのたび7月末をもって任期満了を迎えられる。

らないのが本当に残念です。でもきっとまたお会いできると信じて。心からありがとうございました。

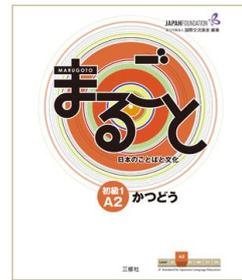
JFMD 日本語専門家 西岡あや

私がマドリッドに着いたのは 2011 年 10 月 15 日の夕方でした。夏はとくに終わったはずなのに、日は燦々と明るくびっくりに覚えています。その数日後、ソルで大規模デモに巻き込まれて迷子になりかけ、すごいところに来ちゃったあとクラクラしていたら、今度はあつという間に「まるごと」に飲み込まれ・・・今日まで「どっぷりまるごと！」の毎日です。3年近い任期中には辛い時期もありました。そんな時いつも教師会のみんなが支えてくれました。みんなスペインの太陽みたいに明るく澁刺として、温かかった！これから恩返しを、という頃に帰らなければな

JFMD より ミミヨリ情報

『まるごと』初級1 A2 発売開始！！

6月7日付で市販版の『まるごと—日本のことばと文化』初級1 A2 が三修社より発売されました。すでにオンライン書店などでは購入可能となっています。初級2 A2 は9月に発売予定です。



本号、新役員に交代後初めてのニュースレターです。記事執筆にご協力くださった皆様、どうもありがとうございました！（編集 加藤さやか）



APJE ニュースレター第 9 号

2013年度スペイン日本語教師会会計報告

収入の部(一般)	
年会費	2,510,00 € (一般 2,430€・学生 80€)
非会員参加費	30,00 € (総会・セミナー非会員参加費)
計	<u>2,540,00 €</u>
支出の部(一般)	
総会(2月9日)	139,87 €
湯沸かし器	32,00€
お弁当代	50,00€ (講師、来賓)
資料代	42,78€ (コピー)
お茶代	15,09 €
研修会(3月15日)	47,44€
講師送迎費	20,00€
講師お土産代	11,00€
お茶代	16,44€
マナー講座(4月20日)	10,49€
資料代	1,10 € (コピー)
お茶代	9,39€
セミナー(7月5日)	26,72€
お茶代	11,57€
タクシー代	15,15€
セミナー(10月18日)	9,60€
お茶代	9,60€
ホームページ・ドメイン維持費	27,83 €
文房具	17,00€
銀行口座維持費	46,50 €
計	<u>325,45 €</u>
2012年12月31日残高 <u>2957,83 €</u>	

$2957,83 € + \text{収入} - \text{支出} = 2957,83 € + 2,540,00 € - 325,45 € = 5172,38 €$ 2013年12月31日現在

残高: 5172,38 € (2013年12月31日現在)

APJE 第 5 回総会・研修会（2014/02/08）アンケート結果

参加者 52 名のうち 40 名の方からご回答を頂きました。いつもご協力ありがとうございます。

1. 本日の研修会は、全体的にいかがでしたか。

とてもよかった：36人　まあまあよかった：4人

コメント：

- オーガナイズがスムーズでよかった。
- 雰囲気がとてもよかった。
- なごやかに多くのことが学べた。
- 仲良くしていただいてうれしかった。
- とても勉強になった。
- 自分では気づかないことが勉強できた。
- 日頃考えていることが、方向違いでないことが収穫。
- とても役立つ情報ばかりで、いつもそうだが今回も実りの多い研修会だった。
- 講演・ワークショップ等が実践的で役に立った。
- 今回も目からウロコのことがあった。
- 総会も含めてすべて新しい視点も得られてとてもよかった。
- ありがとうございます。

2. 基調講演「コミュニケーションのための日本語教育」（野田尚史講師）はいかがでしたか。

とてもよかった：36人　まあまあよかった：3人
あまりよくなかった：1人

コメント：

- とても勉強になった。
- いろいろ考えさせられた。
- 先生の語り方が、親しみやすく共感した。
- 思わず「うんうん」とうなづいてしまった。
- 1つ1つ勉強になることばかりで、本当におもしろかった。
- 参加者とのやりとりを交えたお話で、わかりやすかった。
- リラックスした雰囲気でも質問しながらの講演、楽しく学べた。
- 野田先生の引き込まれるような話術が素敵だった。
- コミュニケーションを重視した日本語教育の考え方を学ぶ機会が得られて、とてもよかった。
- 内容の項目が10項目もあり長そうに思えたが、講師のユーモアのある話し方、たびたび参加者に問いかけを交える進め方のおかげで、楽しく学べた。
- 矛盾を感じつつも従来の型からなかなか抜け出すことができない。どうしても網羅したくなってしまいう心情。欲張ってしまう。文法があることで教師側は安心してしまふ。変えていくための勇気をもたらえた。

- 実際に使う文と教える方法内容について矛盾を感じながら、それがどうしてそう思うのかあまり具体的に考えていなかったが、それを自分なりに認識するよい機会となった。
- 普段気づかない視点でテキストや既存の教育法を見直すことができた。
- 目からウロコのお話をうかがい大変参考になった。

3. アルザス研修還元報告「行動中心主義における評価」（イグナシオ・ロペス講師）はいかがでしたか。

とてもよかった：11人　まあまあよかった：27人
あまりよくなかった：1人　無記入：1人

コメント：

- とても勉強になった。（2人）
- 評価の仕方を見直すよいきっかけになった。
- 抽象的で分かりづらかったが、「正しく話せる」から「正しく伝えられる」能力を評価するというのは目からウロコだった。
- 難しい内容だったが、興味深い concepto だった。
- 難しい内容だったが、ぜひ一度自分の考えを見直したい。
- 説明が長く、内容が少し難しかった。（2人）
- 研修の報告と次のワークショップの前半の説明とで30分くらいでよかったのではないかと思う。

4. ワークショップ「行動中心主義に於ける口頭やりとりの評価：JF Can-do を活かした口頭やりとりテストを作成してみましょう！」（イグナシオ・ロペス講師）はいかがでしたか。

とてもよかった：10人　まあまあよかった：25人
あまりよくなかった：3人　無記入：2人

コメント：

- いざ実際にロールカードを作ろうとしても、すぐできなかった。
- グループで活動できておもしろかった。
- わかりやすかったと思う。
- 説明が長かった。
- 予定自体のテスト作成時間が長く設定されていればよかった。
- ワークショップの時間が少なかったのが残念だった。（16人）
- もう少し時間が欲しかった。（3人）
- 途中からしか参加できなかったのが残念だった。

5. ワークショップ「コミュニケーションのための文法の再検討」（野田尚史講師）はいかがでしたか。

とてもよかった：36人 まあまあよかった：2人
あまりよくなかった：1人 無記入：1人

コメント：

- とても勉強になった。
- わかりやすかった。
- さすが大阪！
- 楽しく考えさせられ、ためになった。
- 大変興味深い内容だった。
- 再検討することができた。
- 実際に役に立つ内容。
- 今後の授業をデザインする際に、活かすことができるお話だった。
- 充実したワークショップだった。
- いろいろ考えるよい機会になった。
- ささまざまな事例とともに考えさせられた。
- 実際のシチュエーションに沿って考えられ、とても興味深かった。
- 具体的な分かりやすい例で、楽しく学ぶことができた。（2人）
- 1つ1つ全員で考えていくというスタイルがよかった。（2人）
- みんなで話し合えてよかった。
- 意見交換が活発だった。
- 教師に言語そのもの以外の部分で学習者が何を必要としているか、振り返るを促す内容で、興味深かった。

6. 運営（開催時期・曜日・時間帯・場所・案内・申込・受付・進行・お弁当・茶菓等）はいかがでしたか。

- 大変よかった（7人）
- よかった（13人）
- とても親切でうれしかった。
- ありがとうございます。（6人）
- お世話になりました。
- 準備に関わられた方々、大変お疲れ様でした。（4人）
- とてもスムーズだった。
- 多少時間がずれたが、進行はまあまあよかった。
- 開催時期・曜日・時間帯については、これからも同じにして欲しい。
- 地方参加の人にとっては少し時間帯が早い。（一日を有効活用するためには仕方ないと思うが。）
- 大机があったのがよかった。
- 会場がちょっと寒かった。
- お弁当の時間があと30分ほど長いとよかった。
- あたたかいお茶がおいしかったです。

- コーヒーブレイクの茶菓、お弁当はとてもよかった。
- お弁当以外よかった。
- お弁当はごはんが固く、照り焼きが半生だった。
- お弁当のごはんは固く、おかずは魚ばかりで、値段と質に少し疑問。
- お弁当があまりおいしくなかった。（2人）

7. スペイン日本語教師会、JF マドリード日本文化センターに対するご意見、ご要望等をお書きください。

- 図書館のリストは新しくなりましたか。
- 図書館に絵本も置いて欲しい。日本語学習者の中でも補習校のようなところで学んでいるような学生のためになる本や、幼児用の本があるとよい。
- 今回初参加だったが、できればまた出席させていたきたい。
- 今後ともどうぞよろしくお願いします。
- 準備・運営をされた先生方、ありがとうございました。（4人）

以上